



チャイニーズティーマスター 小田 純也による
世界 中国茶紀行

Vol.3 プール茶の由来と茶馬貿易



Vol.1 と 2 では、プール茶の産地である中国の西南部に位置する雲南省のシーサバンナ、そしてそこから数千キロも離れたチベットで人々の生活に根付いたプール茶についてご紹介しました。Vol.3 ではシーサバンナの

お茶と、チベットの人々を結ぶ「茶馬貿易」、そしてプーアル茶の由来についてご紹介します。



プーアル茶の輸送と由来

唐の時代（618-907）から茶の輸送が活発化し、交易のため茶は一旦シーサバンナの隣、プーアル県に集められました。そのため「プーアル茶」と呼ばれたのが、プーアル茶の名の由来です。

集められた茶は、馬の背に担がれ遥か遠方へ運ばれました。それは雲南省プーアル県とチベットを結び、果てはインド・ネパールまで続く全長 5,000km にもおよぶ長く険しい行程です。



コンパクトに圧縮される茶葉

輸送しやすくするため、茶はレコード盤形にコンパクトに圧縮されました。1枚 357g に仕上げ、竹の皮を使って7枚ずつ包装します。馬の背に左右12個ずつ、馬が一日に運ぶことができる重量約 60kg を積みました。



茶と馬の交易

チベット族など遊牧民族の主食は、乳製品、肉、麦焦がし、バター、チーズなど高たんぱくで高脂肪なため、野菜などを由来とするビタミンが不足していました。茶葉

には豊富なビタミンが含まれており、また、解毒や解熱作用、そして消化を助ける働きがあることから、チベットの人々にとって生活の必需品となりました。

チベットは、標高が高く、気温が低い上に雨量に恵まれず、茶の栽培には適さない地域です。一方で、チベット高原はのびのびとした環境で、強靱な体力を持つ良い馬が育ちます。中国は、攻防や生産のため馬やラバを必要としたため、有無相通ずる茶と馬の交易が始まりました。



茶のシルクロード「茶馬古道」

茶馬貿易は人々の暮らしや文化の交流をも盛んにしました。交易のルートはのちに「茶馬古道」と呼ばれ、キャラバン隊たちの宿や商店で賑わい、唐の時代からおよそ千年近くも茶馬古道を使った貿易は続きました。シーサバナ・易武（えきぶ）地方の深い山間には、ルートの起点を示す石碑がひっそりと佇んでいます。

茶馬古道は、現在は観光地化され、茶馬貿易にちなんだグッズなどが売られる土産物屋が立ち並びます。



次回 Vol.4 では、ルートの起点・易武地方のプーアル茶のある風景をご紹介します。

撮影：小田 純也

中国料理 香桃

レストランのご予約・お問い合わせ

TEL 06-6343-7020 (直通)

営業時間 10:00 a.m. ~ 7:00 p.m.

rc.osarz.restaurant.rsv@ritzcarlton.com

ザ・リッツ・カールトン大阪

〒530-0001 大阪市北区梅田 2 丁目 5 番 25 号